令和3年度

保健体育

（解答はすべて解答用紙に記入すること）

この試験問題は持ち帰ることができます。
なお，本問題で利用した著作物は，著作権法第36条により，試験の目的上必要と認められる限度において複製したものです。
同目的以外の利用はできません。

（長野県教育委員会）

受験番号					氏名	

（保体　1）

〔問１〕　「中学校学習指導要領」（平成29年３月）第２章　第７節　保健体育　「第２　各学年の目標及び内容」に即して，次の（ a ）～（ g ）に当てはまる語句を書きなさい。

各学年の目標及び内容	
〔体育分野　第１学年及び第２学年〕	〔体育分野　第３学年〕
１　目　標 (1)　運動の合理的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを味わい，運動を豊かに実践することができるようにするため，運動，体力の必要性について理解するとともに，基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)　運動についての自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や（ b ）の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)　運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の役割を果たす，一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全に留意し，自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。	１　目　標 (1)　運動の合理的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを味わい，（ a ）にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため，運動，体力の必要性について理解するとともに，基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)　運動についての自己や（ b ）の課題を発見し，合理的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や（ b ）の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)　運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の（ c ）を果たす，（ d ）する，一人一人の違いを（ e ）にしようとするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を（ f ）して，生涯にわたって運動に（ g ）態度を養う。

〔問２〕　保健分野について，「中学校学習指導要領解説　保健体育編」（平成29年７月　文部科学省）第２章　「第２節　各分野の目標及び内容」に即して，以下の問いに答えなさい。

２　内　容
(1)　健康な生活と疾病の予防
ア　知識
(ｱ)～(ｳ)　（略）
(ｴ)　喫煙，飲酒，薬物乱用と健康
㋐，㋑　（略）
㋒　薬物乱用と健康
薬物乱用については，覚醒剤や大麻を取り上げ，摂取によって幻覚を伴った激しい（ ① ）の錯乱状態や急死などを引き起こすこと，薬物の連用により（ ② ）症状が現れ，中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な（ a ）が起きることを理解できるようにする。
また，薬物乱用は，個人の心身の健全な発育や（ b ）を阻害するだけでなく，社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため，暴力，非行，犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあることを理解できるようにする。

喫煙，飲酒，薬物乱用などの行為は，好奇心，なげやりな気持ち，過度のストレスなどの（ c ）状態，断りにくい人間関係，宣伝・広告や入手し易さなどの（ d ）環境によって助長されること，それらに適切に対処する必要があることを理解できるようにする。
また，（ ③ ）分野との関連を図る観点から，フェアなプレイに反する（ ④ ）の健康への影響についても触れるようにする。

(1)　（ a ）～（ d ）に当てはまる疾病の発生要因を下の選択肢ア～クの中から選び，記号を書きなさい。
〔 ア　メディア　　イ　心理　　ウ　人格の形成　　エ　骨格の形成　　オ　社会
カ　障害　　キ　心身の　　ク　問題 〕

(2)　（ ① ）～（ ④ ）に当てはまる語句を書きなさい。

〔問３〕　体つくり運動について，「中学校学習指導要領解説　保健体育編」（平成29年７月　文部科学省）第２章　「第２節　各分野の目標及び内容」に即して答えなさい。
(1)　次の枠内の下線部を説明している文①，②の（ a ）～（ f ）に当てはまる語句を下の選択肢ア～シの中から選び，記号を書きなさい。

A　体つくり運動
［第１学年及び第２学年］
(1)　知識及び運動
体つくり運動について，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
(1)　次の運動を通して，体を動かす楽しさや心地よさを味わい，体つくり運動の意義と行い方，体の動きを高める方法などを理解し，目的に適した運動を身に付け，組み合わせること。
ア　体ほぐしの運動では，手軽な運動を行い，心と体との関係や心身の状態に気付き，仲間と積極的に関わり合うこと。
イ　（略）

① **手軽な運動**とは，誰もが（ a ）に取り組むことができる運動，仲間と協力して楽しくできる運動，心や体が（ b ）ような軽快な運動を示している。

② **心と体との関係や心身の状態に気付き**とは，運動を通して，体がほぐれると心がほぐれたり，心がほぐれると体がほぐれたりするように，自己の心と体は互いに関係していること，さらに，（ c ）の心と体とも関わり合っていることに気付くことである。また，自らの心が軽くて解放された状態なのか重く（ d ）状態なのかを（ e ）したり，体の動かし方には（ f ）があることなどに気付いたりすることである。

［ア　自覚　　イ　安易　　ウ　暗い　　エ　個人差　　オ　多くの種類　　カ　簡単
キ　弾む　　ク　指導者　　ケ　沈んだ　　コ　工夫の必要　　サ　踊る　　シ　他者］

(2) 第３学年の実生活に生かす運動の計画について，次の（ g ）～（ j ）に当てはまる語句を，下の選択肢ス～ニから選び，記号を書きなさい。

> **(1) 知識及び運動**
> ○ **知識**　（略）
> ○ **運動**
> **ア**　（略）
> **イ　実生活に生かす運動の計画**
> 実生活に生かす運動の計画では，自己の（ g ）生活を振り返り，健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るために，（ h ）運動の計画を立てて取り組むことが大切である。
> （略）
> 指導に際しては，①（ i ）は何か，②いつ，どこで運動するのか，③どのような運動を選ぶのか，④どの程度の（ j ），時間，回数で行うかなどに着目して運動を組み合わせ，計画を立てて取り組めるようにすることが大切である。
> （以下略）

［ス　体つくり　　セ　ねらい　　ソ　ポイント　　タ　運動　　チ　難易度
ツ　運動強度　　テ　体の動きを高める　　ト　日常　　ナ　特性　　ニ　体ほぐし］

(3) 次の①，②の文で，正しいものには○，正しくないものには×を書きなさい。

① 体つくり運動の領域は，各学年において，全ての生徒に履修させることとしている。

② 体つくり運動の領域における授業時数は，第１学年及び第２学年は７時間以上を配当することとし，第３学年は10時間以上を配当することとする。

〔問４〕　第１・２学年の現代的なリズムのダンスについて，「中学校学習指導要領解説　保健体育編」（平成29年７月　文部科学省）第２章　「第２節　各分野の目標及び内容」に即して，次の（ a ）～（ f ）に当てはまる語句を書きなさい。

> ○ **技能**
> **ア，イ**　（略）
> **ウ　現代的なリズムのダンス**
> 現代的なリズムのダンスは，ロックやヒップホップなどの現代的なリズムの曲で踊るダンスを示しており，リズムの（ a ）を捉え，（ b ）のある動きを組み合わせて，リズムに乗って体幹部（重心部）を（ c ）に全身で（ d ）に弾んで踊ることをねらいとしている。
> （略）
> リズムに乗って全身で踊るとは，ロックの弾みやヒップホップの（ e ）の動き（体全体を上下に動かしてリズムをとる動き）の特徴を捉え，体の各（ f ）でリズムをとったり，体幹部を（ c ）にリズムに乗ったりして全身で（ d ）に弾みながら踊ることである。
> （以下略）

〔問５〕　器械運動について，次の問いに答えなさい。

(1) 第１・２学年「跳び箱運動」における主な技の例示について，「中学校学習指導要領解説　保健体育編」（平成29年７月　文部科学省）第２章　「第２節　各分野の目標及び内容」に即して（ a ）～（ c ）に当てはまる語句を書きなさい。

系	グループ	基本的な技 （主に小５・６で例示）	発展技
切り返し系	切り返し跳び	開脚跳び ⟶ かかえ込み跳び ⟶	開脚（ a ）跳び （ b ）跳び
回転系	回転跳び	頭はね跳び ⟶	前方屈腕（ c ）回転跳び ⟶ 前方（ c ）回転跳び

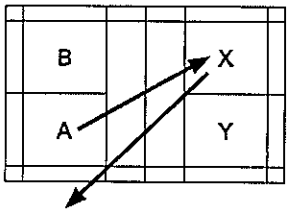
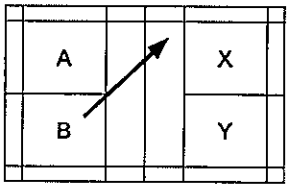
(2) 鉄棒運動の技の組合せについて，「学校体育実技指導資料　第10集　器械運動　指導の手引き（平成27年３月）文部科学省」に即して，次の文の（ d ）～（ f ）に当てはまる語句を書きなさい。

鉄棒運動における技の組合せについては，学習指導要領の解説では，
【中学校】～同じグループや異なるグループの基本的な技，（ d ）を変えた技，（ e ）技の中から，いくつかの技を「上がる－回る－下りる」に組み合わせて行うこと
と示されています。
その際，全ての技を一人で実施できればよいのですが，なかなかそうはいかないのが児童生徒の実態です。そこで，仲間の（ f ）があってもよいことにすると，ほとんどの児童生徒が「上がる技」「回る技」「下りる技」という技の組合せの流れを経験することが可能になります。

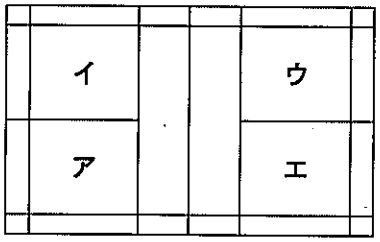
〔問６〕　球技について，次の問いに答えなさい。
(1) 「中学校学習指導要領」（平成29年３月）第２章　第７節　保健体育「第２　各学年の目標及び内容」に示されている「体育分野　第１学年及び第２学年」に即して，次の（ a ）～（ c ）に当てはまる語句を書きなさい。

> ２　内　容
> Ｅ　球　技
> 球技について，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
> (1)　（略）
> (2)　（略）
> (3)　球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，（ a ）などについての話合いに参加しようとすること，（ b ）の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を（ c ）しようとすることなどや，健康・安全に気を配ること。

(2) バドミントンについて，「競技規則（公益財団法人　日本バドミントン協会採択）」（昭和24年４月１日施行　平成30年８月１日一部改訂）を踏まえて，次の問いに答えなさい。
① ダブルスのゲームで，下の各場面における得点後のサーバーは，Ａ，Ｂ，Ｘ，Ｙの誰になるのか，また，サービスコートの位置は，【コート図】のア，イ，ウ，エのどの位置になるのか，それぞれ該当するものに○を付けなさい。
※　図内の→は，シャトルの流れ

場面	プレイの内容とサービス時のプレーヤーの位置	
場面１	試合開始。 ・Ａがアからサービス ・Ｘがレシーブをフォルト ・ＡＢの得点 <得点> ＡＢ(1)-(0)ＸＹとなる ・（　　）が（　　）からサービス	
場面２	・Ｂがアからサービスをフォルト ・ＸＹの得点 <得点> ＡＢ(4)-(4)ＸＹとなる ・（　　）が（　　）からサービス	

【コート図】



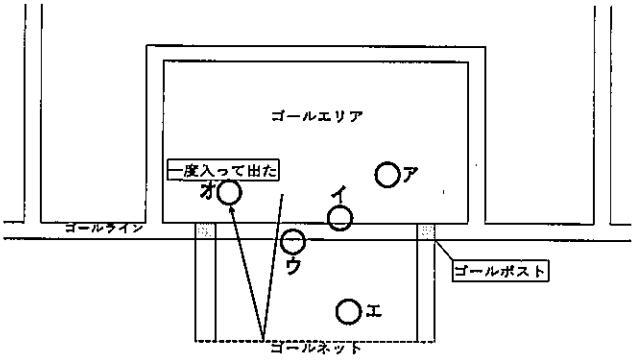
② 次のア～オの文で，フォルトとなるものを３つ選び，記号を書きなさい。
ア　サービス時，サーバーのラケットで打たれる瞬間に，シャトルの一部がサーバーのウエストよりも上にあった。
イ　サービス時，サーバーがシャトルを打つ瞬間にラケットシャフトが下向きであった。
ウ　サービスが終わるまで，サーバーの片足が床から離れていた。
エ　ネットを越えてきたシャトルを打った勢いで，ラケットがネットを越えた。
オ　ダブルスで，プレーヤーとそのパートナーが連続してインプレー中のシャトルを打った。

(3) 下の文は，「中学校学習指導要領解説　保健体育編」（平成29年７月　文部科学省）第２章　「第２節　各分野の目標及び内容」の一文である。中学校第１学年及び第２学年のゴール型の授業づくりにおける，ゴール前の空間をめぐる攻防についての学習課題を追究しやすくするためのゲームの工夫について，本文に即して，下の（ a ）～（ d ）に当てはまる語句を書きなさい。

> 指導に際しては，ゴール前の空間をめぐる攻防についての学習課題を追究しやすいようにプレイヤーの（ a ），（ b ）の広さ，（ c ），プレイ上の（ d ）を工夫したゲームを取り入れ，ボール操作とボールを持たないときの動きに着目させ，学習に取り組ませることが大切である。

(4) サッカーの得点について，「サッカー競技規則(Laws of the Game 2019/20)」（IFAB制定，公益財団法人日本サッカー協会翻訳）に即して，下の図の**ア**～**オ**のボールの位置で得点と認められるものを全て書きなさい。ただし，ゴールにボールを入れたチームが反則を犯していないこと，また，ゴールキーパーが相手のゴールに直接ボールを投げ入れたものではないこととする。

※　図中の「○」は，**ア**～**オ**のボールの位置を示している



〔問7〕　武道について，次の問いに答えなさい。

(1)　「中学校学習指導要領解説　保健体育編」（平成29年7月　文部科学省）第2章　「第2節　各分野の目標及び内容」に即して，次の（ a ）～（ d ）に当てはまる語句を下の選択肢**ア**～**ス**から選び，記号を書きなさい。

> **3　内容の取扱い**
>
> カ　「F武道」については，柔道，剣道，相撲，空手道，なぎなた，弓道，合気道，少林寺拳法，銃剣道などを通して，（ a ）の（ b ）により一層触れることができるようにすること。また，(1)の運動については，アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。なお，学校や地域の実態に応じて，空手道，なぎなた，弓道，合気道，少林寺拳法，銃剣道などについても履修させることができること。また，（ c ）などの確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに，学習段階や（ d ）を踏まえ，段階的な指導を行うなど安全を十分に確保すること。

ア　武道	**イ**　格闘技	**ウ**　我が国固有	**エ**　財産	**オ**　資質・能力
カ　育み	**キ**　用具	**ク**　習熟度	**ケ**　性別	**コ**　個人差
サ　武道場	**シ**　指導者	**ス**　伝統と文化		

(2)　「柔道の授業の安全な実施に向けて（平成24年3月）文部科学省」を踏まえて，次の問いに答えなさい。

実際の授業の中で安全な柔道指導を行う上で具体的な留意点の一つとして，多くの生徒が「初心者」であることを踏まえた段階的な指導が求められている。投げ技のかかり練習や約束練習の段階における指導の工夫について，安全な指導の視点に立ち，「**立位**」，「**受け身**」，「**両膝**」の3つの語句を全て用いて60字以内で書きなさい。

(3)　「中学校学習指導要領解説　保健体育編」（平成29年7月　文部科学省）第2章　「第2節　各分野の目標及び内容」に即して，剣道において例示されている次の**ア**～**キ**の技を，「しかけ技」と「応じ技」に分類し，記号を書きなさい。

ア　小手抜き面	**イ**　面－面	**ウ**　出ばな面	**エ**　引き胴	**オ**　面抜き胴
カ　払い面	**キ**　小手－面			

〔問8〕　体育理論について，「中学校学習指導要領」（平成29年3月）第2章 第7節　保健体育「第2　各学年の目標及び内容」に示されている「体育分野　第1学年及び第2学年」に即して，次の（ a ）～（ h ）に当てはまる語句を下の選択肢**ア**～**ソ**から選び，記号を書きなさい。

> H　体育理論
>
> (1)　運動やスポーツが多様であることについて，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
>
> ア　運動やスポーツが多様であることについて理解すること。
>
> (ｱ)　運動やスポーツは，体を動かしたり健康を維持したりするなどの必要性及び（ a ）ことや課題を達成することなどの（ b ）から生みだされ発展してきたこと。
>
> (ｲ)　運動やスポーツには，（ c ）こと，（ d ）こと，（ e ）こと及び（ f ）ことなどの多様な関わり方があること。
>
> (ｳ)　（ g ）に応じて，生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには，（ h ）に適した多様な楽しみ方を見付けたり，工夫したりすることが大切であること。

ア　する	**イ**　楽しさ	**ウ**　挑戦する	**エ**　喜び	**オ**　知る
カ　得る	**キ**　目的	**ク**　支える	**ケ**　指導する	**コ**　世代や機会
サ　自己	**シ**　見る	**ス**　発達段階	**セ**　競い合う	**ソ**　行う